

3. 経営成績及び財政状態

(1) 経営成績

当中間期の業績

当中間期の世界経済は昨年未から改善傾向を示す米国経済を軸に欧州、アジアとも外需主導の景気回復に向かいやや明るさを見せてまいりました。一方わが国経済は02年4-6月期の実質GDPが5四半期ぶりにプラス成長となったものの個人消費や設備投資に勢いはなく、先行きに不安を残す結果となりました。

自動車業界におきましては、国内販売は新型車の投入により小型乗用車や軽乗用車が前年同期を上回ったものの普通乗用車などが減少したため、全体では278万台と2年連続で前年同期を下回りました。一方、輸出は北米、欧州、アジアなど景気回復が進む地域が好調であったため、2年ぶりに前年同期を上回りました。この結果、国内自動車生産台数も2年ぶりに前年同期を上回りました。

このような環境の中で、当社はキーに電子認証IDを組み込んだ自動車盗難防止装置「イモビライザー」の世界的な需要拡大に対応するため、北米、アジアでの生産拠点の拡充に向けた諸準備を進めております。また、北米でのセーフティ製品拡販に向けたシステム化提案を強化するため、豊田合成(株)と共同でエアバッグなどの試験評価施設を米国に建設することとしました。2003年7月完成の予定であります。

当中間期の業績につきましては、

連結売上高	118,402百万円	前年同期比	10,753百万円増(10.0%増)
連結営業利益	3,656百万円	前年同期比	683百万円減(15.8%減)
連結経常利益	3,492百万円	前年同期比	1,066百万円減(23.4%減)
連結中間純利益	4,295百万円	前年同期比	1,768百万円増(70.0%増)

となりました。

中間配当金につきましては、1株につき6円とさせていただきます。

通期の見通し

今後の世界経済は堅調な消費に支えられてきた米国経済が株価動向、中東情勢によっては景気後退局面に入ることと予想されるなど不透明感が払拭されない中で、今後の動きに注意していく必要があると思われます。わが国経済も輸出は堅調に推移しているものの、雇用環境は依然として厳しく消費も伸び悩んでいることから、低迷を続けるものと思われます。

自動車業界におきましても、国内販売はコンパクトカーが比較的堅調なものの、その他の車種は伸び悩み、前期を上回るのには厳しいと思われます。輸出は北米、欧州、アジアとも好調を維持し国内販売の不振を補うものと期待されますが、現地生産の拡大に加え、為替動向や世界情勢に左右されやすい側面もあり、控えめな見方が必要と考えております。以上のことから国内自動車生産は前期並にとどまるものと思われます。

このような経営環境のもと、当社は「グローバル事業を始めとする成長戦略を展開」する一方、お客様の信頼確保と強固な経営基盤の確立のために「品質と原価の造り込み」を最重点課題として掲げ、仕入先も含めた徹底的な品質改善、コスト競争力世界No.1の早期実現、他社の追随を許さない新製品、新技術の開発、商品化、グローバル経営戦略の展開と積極的な拡販、安全、環境重視の事業運営、高い生産性の実現に向けた構造改革の推進に邁進し、社業の一層の発展に取り組んでまいり所存であります。

通期の業績につきましては、連結売上高237,000百万円、連結経常利益9,500百万円、連結当期純利益7,700百万円となる見込みであります。

(2) 財政状態

当中間期における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、19,109百万円となり前期末より4,238百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は8,083百万円となりました。これは主に税金等調整前中間純利益7,914百万円、減価償却費4,721百万円等による増加と、厚生年金基金の代行部分返上による利益3,986百万円、法人税等の支払額2,369百万円等による減少の結果であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は11,333百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出8,074百万円、投資有価証券の取得による支出5,259百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は831百万円となりました。これは主に配当金の支払額463百万円、自己株式の取得による支出420百万円等によるものであります。